



**MRAアジアセンター**

---

お 願 い

M R A は全世界にわたって展開されている極めて強力な革命運動であり、共産世界、非共産世界の双方をより優れた段階に導く力を持っております。状況の緊迫化に伴い、各国の指導者が M R A に解答を求めこれを国家的に推進しようとする動きが次第に大きくなっております。

現在 M R A の世界センターは、スイスのコー及び米国のマキノ島にあって非常な活躍をしておりますが、今回世界第三のセンターが日本に於て建設されることになりました。

本年十月、センターの完成をまわって開催されるアジア大会には、ベトナムのゴ・デイエム大統領、パキスタンのアユブ・カーン大統領をはじめ各国指導者の絶大なる支持と出席の希望が表明されており、日本は勿論アジアの現状に抜本的な解決を与えることが予想されております。

したがってこのセンターの建設ならびに運営は、私共がアジア大陸全体の将来に物心両面の責任を果たす良い機会であると考えられます。

私共は、周到な計画のもとに本格的な M R A センターを建設するべく日夜心を砕いております。既に各方面から非常な御支援を賜わり御寄附の申込みを頂いておりますことは誠に感謝の至りに存じます。しかしながら未だ左記のように不足分もございますので、何卒格別の御配慮を頂きたく此段特にお願ひ申上げる次第でございます。

昭和三十七年五月

早川信一 千葉三郎  
十河信二 藤昭四郎  
山際正道 柳澤鎌造  
佐藤魁 沢敬三

(イロハ順)

# 建設計画の概要

## 1 土地購入（登記完了済）

神奈川県小田原市十字四丁目一〇〇六（旧閑院宮邸）

八、一四九坪 金一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円也

## 2 建築計画（工事進行中）

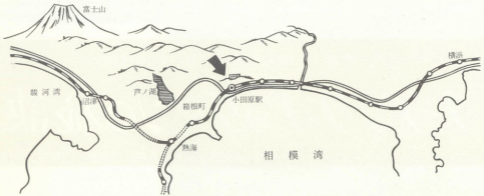
本館 鉄筋コンクリート 地上四階 地下二階

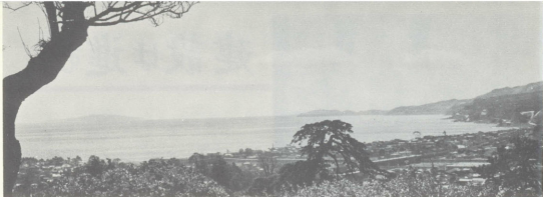
集会場、食堂、宿舍設備を含む

建坪約二、〇〇〇坪 金四〇〇、〇〇〇、〇〇〇円也

合計 金五〇〇、〇〇〇、〇〇〇円也

土地は東海道線小田原駅より約五分、箱根山を背にして小田原城及び相模湾をへだてて大島、伊豆諸島を見渡たす風光は旧宮邸の持つ格調の高さを伝えていす。センターはとりあえず一、〇〇〇名を収容し得る集会場、食堂設備を持ち二〇〇名程度の宿泊が可能です。





アジアセンター建設地の庭園より相模湾を経て遠く大島を望む

## 募金の現況

一、目標額

金五〇〇,〇〇〇,〇〇〇円也

二、募金の状況

(昭和三十七年四月十五日現在)

イ、法人寄附

一四八,〇〇〇,〇〇〇円

ロ、個人寄附

一七二,〇〇〇,〇〇〇円

寄附申込合計

三二〇,〇〇〇,〇〇〇円

今後必要額

一八〇,〇〇〇,〇〇〇円

## 今後の募金計画

イ、法人関係

電力、自動車、造船、石油、セメント、地方銀行、瓦斯、電気通信等産業界全般にわたって募金活動を推進します。

ロ、個人寄附

一般個人は勿論各労働組合その他でも広範な募金を計画しています。どうか金額の多少にかかわらず御援助、御高配をお願いいたします。

(同封申込書を御参照下さい)

# 建設は進む



国鉄総裁公館において建設委員の打ち合せ、手前後向きはスイスの建築家チャリニ・ルドルフ氏、左より千葉三郎氏、山際正道氏、渋谷敬三氏、十河信二氏（36年12月）

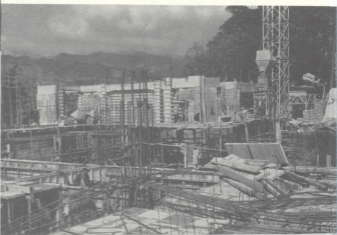


ビルマの大僧正を迎えて地鎮祭を行なう（36年12月）母宝するは鈴木小田原市長



清水建設KKにより整地工事始まる（37年1月）

主体工事始まる（大食堂を望む）（37年4月現在）



ピーター・ハワード著／相馬雪香訳／毎日新聞社刊

# フロンク・バックマンの秘訣

B6判・上製本クロス表紙 200頁 定価 270円